

■現状・全体意見

【基本の考え方】

- 地域に役立つ土地利用の話し合いの場を設けてほしい
- 多様な主体の話し合いの場は必要
- センター利用者限定でなく、センター内・外に開けるように
- “あってよかったな”と思えるセンターにしたい
- 子どもが安全にくらせる街に
- あいらんセンターだけでなく売人などについても話さなければならない
- 前提条件に疑問
 - ・地図上にあいらん地域がない。あいらんの提議があいまい ・そもそも「あいらん地域」とは？ ・区全体も意識して
- 情報が少ないので、議論が進められない
 - ・現状の機能についての情報を共有 ・活用できるスペース（土地、建物）についての情報
 - ・地域の各団体、住民の意見を聞く機会を増やして ・地域に役立つ土地利用の話し合いの場
 - ・地域の要望を聞かないと議論できない
- どんな人でも受け入れられる町に
 - ・仕事と子育てが一体にできるまちに ・仕事を求めて地域にやってくる。仕事がないと来ない
 - ・新しい人が入ってくるのに必要な機能は何か
 - ・排除ではなく、多様な主体が一緒にやっていくことが重要（野宿生活者や労働者、子ども、町会など）
- 今ある機能をキチンと捉えてから議論を
 - ・3つ（社医C、住宅、労働福祉C）の枠組みだけでなく、現場でつくられてきた機能も把握（時代とともに機能は大きく変化している）
 - ・居場所や現場での支援などの機能も再確認
 - ・新たにつくる必要のある機能は何か検討を
 - ・機能の議論の順序として①住宅→②社医C→③労働福祉Cが良いのでは
- 急ぐテーマ、時間をかけるテーマを分ける
 - ・住宅をとるだけで10年かかる…？現実味が無い ・住宅のように急ぐものと労働系のような時間をかけるテーマ
 - ・どれくらいの期間、規模でまちづくりを考えるのか ・若い世代を呼ばないと長い計画が持続しないのでは？
 - ・この様な、みんなが意見の言える場を継続してほしい ・市・府・国と議論・意見できる場が必要
 - ・まちの将来イメージの共有が重要（将来予想＋夢、どんなまち？）

【地域課題との関係】

- 道路の整備・違法駐車・駐輪対策（地域内に駐車場を確保）
- 違法駐車もまちづくりに改善していくべき
- 1.2丁目に子育て世代を入れるのは難しい
- 警察にも関わってもらう

【耐震・防災】

- 耐震性が確保できていない、本当に建替えが必要か？
- 地域内に避難所が必要（防災というテーマが大事）

【公園】

- 三角公園に老人を住まわせてどうする
- それぞれの公園にはそれぞれの機能がある。ただし、一般的な公園としては機能していない部分もある
- 単なる空地ではないので、拙速に他の機能を再配置するのはよくない

【小学校跡地の活用について】

- まちづくりの視点で小学校跡地を考える
- 萩小だけですべて収まるわけではない
- 地域防災の拠点である
- こども教育の拠点、プレーパークなど
- 萩の森は、子どもたちのために残して活用
- 萩の茶屋小学校跡地の活用のあり方が重要
 - ・市にはビジョンがない ・京都のような方針をつくるべき
- 小中一貫校
 - ・児童300名→48名（萩之茶屋地区）1/6になった原因は？
 - ・今宮小中一貫校ができたが、将来も減少する可能性はある
 - ・小中一貫校じゃなく鶴見橋地区も一緒に考える
 - ・一貫校に通学させようと思っている親は約100名（他区からの流入希望者）
 - ・小中一貫校は興味ある。これを機会に魅力をつくる

■これからの機能

【機能構成】

- 機能は分散（バラバラに）してもよい。機能ごとに、規模・立地・手法を考える
- まちの機能が有機的に結びつくように
- 新しい機能的なものに、今の時代にフィット
- 今必要なものと将来必要なものが違う。切り替えられるようにした方がよい
- センターの機能だけでなく、地域一体でイベント等できるような開発を
- センターを多目的にいろいろな人がシェアできるように
- 時間でシェアして使えるようにしてほしい

【新しい機能】

- 防災機能は公共施設等には必要
- 防災機能や文化・芸術はセンターの兼用が可能（時間帯を変えて）
- 複合機能
 - ・コミュニティ・文化施設 ・住宅+医療+文化施設 ・銀行、郵便局など
 - ・住宅+病院+遊び場+防災（避難所）を一体で考える
- その他
 - ・総合センターと小学校の間の道は不要 ・住民登録などができるように

■必要な規模

- 現在の利用ニーズにあった機能、必要な規模
 - ・現機能の利用者減少（5～10年後労働者はもっと減少する） ・利用現況（実態）を考えて機能、規模を考えるべき
 - ・大きなものでなく小さなものから個のまちのポテンシャルを試すことが重要では？
 - ・現状規模は必要ではないか ・規模は縮小したとしても機能は充実させる
 - ・利用状況に合わせた、融通の利く空間利用が必要
 - ・地面の面積は減らしてもいい

■更新方法・立地

【更新方法】

- 耐震後15年（耐用年数）なら効果少ない
- センターを立体的に使えるように

【どこに更新するか？】

- 立地の考え方
 - ・土地の確保が困難
 - ・センターは駅前に必要か？駅前の賑わい・新今宮の顔
 - ・あいらん地域外への移転は難しい
 - ・同規模一体移転先はあいらん地域内にない
- 考えられる場所
 - （駅周辺）
 - ・新今宮駅北の土地はどうか？
 - ・現あいらん総合センターを南側に圧縮して北側に駅前としてのスペースをつくるのはどうか
 - （公園）
 - ・三角公園はどうか？ ・公園が使えていない
 - （小学校）
 - ・小学校周辺エリアで移転配置はどうか？ ・今ある広いスペースとしての運動場の空間利用
 - （ゾーン配置）
 - ・南海の西側は教育エリア、東側は労働エリアとして配置してはどうか
- 活用できそうなスペース
 - ・市更相 ・東田保育所 ・萩之茶屋小学校の運動場 ・シェルター計画地（三徳寮東隣） ・公園
 - ・南職安 ・その他、大阪市関連の土地は？
- 残したい場所
 - ・萩小の「萩の森」は残したい（地域唯一の緑）

■現状・全体意見 (労働福祉センター / 職安)

【現状】

- 機能の明確化、労働福祉センターと寄り場機能（理解しにくい）
- 周辺への影響
 - ・路上求人管理、道路手配との関係 ・路上求人をやめさせて建物のなかで求人するようにするのか？
 - ・駅前イメージはどうか？
- 利用状況を考慮
 - ・センター周り 50～60 台、南霞を含めると 100 台の車 ・車、人の動きは朝 5 時から
 - ・朝は実際に人はそんなに動いていない
- 労働者の減少
 - ・建設業界の人手不足 ・労働者（利用者）数は減少傾向
- 住民の合意
 - ・あいりん総合センターができた当時は簡宿も多くあったので、労働者のまちとして地域住民も納得できた
 - ・地域住民の合意は難しい
- 車の通り道が問題、子供が遊べない
- 利用者数や今後の予測・労働者数の推移
- バブル時代以前の利用にあった機能・規模なので、現機能では利用者が減少傾向
- 労働者の落とす金で西成のまちはできている
- あいりん職安が仕事を紹介していないのはおかしい

【基本の考え方】

- 機能をしっかり考えるべき
 - ・労働福祉センターの構成機能ごとに考える ・機能を考えてからどう建てるかを考えるべき
 - ・「寄り場」と労働福祉センターをわけて考える
- 地域の声を聞く
 - ・これからの計画及びこれからの有りようをしっかりと議論する ・労働に関しての話し合いが不十分である
 - ・労働政策を担う責任部局（国、府）も議論に参画すべき ・センターの上部を移動している間に下部の話をするべき
 - ・立ち退きなんか望んでいない ・利用している事業所の声も反映すべき
 - ・労働者の意見を代表者が言えるのか、労働者の意見を聞くべき ・「住民の総意」じゃないなら強制移転はだめ
 - ・様々な立場の人で話し合いを行っていても、労働者側では議論ができていない
- 柔軟に変化（対応）ができる施設
 - ・暫定的・段階的な利用もできないか ・社会変化を受け止める計画が必要 ・多くの主体を巻き込んだものにしたい
 - ・地域との諸施策とどのように関係し位置づけてしていくか、野宿者問題はどうか
- 居場所としての機能
 - ・地域住民、日雇労働者、野宿生活者、サポーターハウス入居者などの居場所としての機能の再確認
- 情報の提供・説明
 - ・移転と改修のメリット・デメリットを表示してほしい ・耐用年数に関しての数値をだして欲しい。専門家の意見も
 - ・何年先までに出ないといけないのか知りたい ・センターをどういう意図で建てられたのか説明してほしい
- 計画の担保
 - ・次のプランが実現する担保がない ・5年後建て替えが本当にできるのか
- スケジュール
 - ・労働センターは当分動かないのでは ・職安の解決に至るまで 10 年かかるのでは ・現実味ある時間的計画が必要
- 労働福祉センターが教育に悪いとは思わない
- 耐震が不安とは、脅かしになっていないか？
- どれだけのスペースを使えるのか把握できてないので考えにくい

■これからの機能 (労働福祉センター / 職安)

- 居場所
 - ・寄り場の維持（都市の発展には寄り場は必要） ・居場所を多く点在させるべきである ・労働者の居場所づくり
- 職業紹介
 - ・市は府、国に働きかけて雇用の創出と確保を ・市は「あいりん職安」に仕事を outsourc しよう働きかけて
 - ・紹介業務の継続
- 多くの人たちを受け入れられるし施設に
 - ・若い人の居場所づくり ・若者の就労支援（若手と仕事のマッチング） ・雇用チャンスを与えられる技術講習などの施設
 - ・障がい者などの受入 ・労働者の機能は必要（利用者が減る） ・自立支援機能
 - ・朝だけの活用ではなく、多様な人が利用できるように
- 仕事や技能の充実
 - ・建物だけでなく仕事が集まる場 ・労働者を育てる（技能育成） ・人材流入・生産性を上げる機能を
 - ・生活・労働・技能訓練の複合した施設に ・仕事さえあれば野宿者、生活保障は減る
 - ・労働者を生活と労働、縦割りにしないでトータル的にサポートできる労働施設に
- 新しい機能
 - ・防災拠点 ・まちづくりとして新しい機能を加えていくべき
 - ・併設で野菜工場を作ってほしい。高齢者でもできる軽い仕事を中心に
 - ・新たな「働く人」を呼び込むべく、広場機能+（大小ビジネス）オフィス機能を
- 手配師を一掃できる寄り場に
- 規模を議論しないと機能について議論できない
- 建物だけではなく他の社会問題や要求にも対応すべきである

■現状・全体意見（駅前）

【現状】

- 利用者
 - ・天下茶屋で1日6.7万人の通行量
 - ・通勤がもっているポテンシャルを活かすべき
 - ・乗り継ぎは多いが、乗り降りが少ない
 - ・新今宮西口を使う人はほとんどいない
 - ・西口の乗降者は海外の旅行者のみ
- 夜あいている店がない
- 道路上の露店は迷惑。人気なのは違法なものばかり。露店もかつては人気があった

【基本の考え方】

- 鉄道会社との連携
 - ・JRと南海も巻き込まないと
 - ・南海とJRに資本を出してもらう
 - ・“駅前活性化”といった場合、事業者はだれ？
 - ・南海、地下鉄を移動する人々にとってセンターはどう映ってるのか？ネガティブなイメージを与えてしまう
 - ・JRは広く開放すべき。西口だけではもったいなく、角地など更に有効活用すべき
- まちのポテンシャル
 - ・交通の要所をうまく使いたい
 - ・「新しい人」のポテンシャルはあるのでは
 - ・センターは、いい場所なのにもったいない
 - ・今、外国人旅行者多い
 - ・観光客を引き寄せられないか
 - ・駅を誰のために使うかも議論が必要
- 商業化への疑問
 - ・商業を入れるのは本当に必要か、まず外から人を寄せる必要があるのでは？
 - ・この人にとっては商業施設は今のままで十分ではない？
 - ・阿倍野が既にあるから大規模開発は無理
 - ・普通の商業、施設ではなく何かに特化するべき
 - ・文化的なもので人を呼べないか
- 他区との連携、浪速区の空き地も活用
- だれが開発をするのか。市か民間か
- 排除にならない活性化を
- 国の人もいないと話が進まない
- 遅い時間に帰る人への配慮（人通り少ないから）
- 安心して住めるまちづくり
- 新しい人材が交流するように
- 新世界は観光事業として成功している。西成は観光事業として成功するのか？
- 住民を増やす＝消費力があがる。生産力もあげたい
- 駅周辺の賑わいづくりも必要

■これからの機能（駅前）

- 駅前の賑わい機能
 - ・露店の場所を鉄道下に決めたら賑わうんじゃないか（違法ではないもの）
 - ・一坪店舗も一坪貸畑もいいのでは？
 - ・空き地は畑に
- センターの賑わい機能
 - ・1Fは駅前商店街として発展させたい
 - ・屋台街エリアをつくっては
 - ・バザールとか面白いのでは
 - ・露店の場所もしっかり確保
 - ・地域の特性を生かす商店（使われ方を考えることが重要）
- 回遊性、利用者増へ
 - ・商業的回遊路を確立する
 - ・もっと消費者を呼び込まなければ商業化
 - ・新しい商業施設は新しい人が来ないと成り立たない
- 若者が集まるまちに
 - ・若い人がLIVEしたりとかできる空間や広場など
 - ・裏難波の感じの場所（裏難波の延長）
- 銀行、郵便局が必要
- 商業施設だけではなく文化的なものを
 - ・文化教室、貸しオフィス、劇場
 - ・立地を活かしフィスを誘致したい

■必要な規模 (労働福祉センター / 職安)

- 適切な検討が必要
 - ・縮小前提の議論は疑問
 - ・利用状況から縮小してもよいのでは
 - ・スペースは縮小しない
- 新しい機能が入る適正規模、将来のニーズ変化への対応
- 駐車場の確保、地下駐車場
- 利用状況を考えて、機能・規模を考える (朝早い時間から利用、車が一時期に集まる)
- 駐車場も含めると労働福祉センターは規模拡大
- 役所や職安が本来の仕事をしたら規模はもっと必要なのでは

■更新方法・立地

【更新方法】

- 建て替え
 - ・国・府・市に対して現地での建て替えを要望してほしい
 - ・使い勝手が悪くなるのでは、建て替えを (筋交いだらけ)
 - ・15年しかもたないのなら建て替えを
 - ・全体的に作り替えるほうが良いのではないか (70年建物が経過している)
 - ・現地建替えの時どこに行けばいいのか
- 耐震補強
 - ・危険なら早く補強工事すればよいのでは
 - ・医療センターと住宅を移動したら、簡単な耐震工事で労働センターを長持ちさせることができるのでは?
- 利便性の向上
 - ・下階は商店として使う提案
 - ・南海を1フロアあげてJRとフラットに
 - ・センターも高層化で繋ぐ
 - ・JRにエレベーターを
 - ・大阪市：歩道広げて
 - ・南海、JRを陸橋で繋ぐ (フラット化)、かつセンターにもつなぐ
 - ・駐車場を設ける、階段に対してエレベーターの設置をJRなどに求める
- JR西口、電車での利用者には“地域の顔”もっと活かしたい今のセンター機能は南下しては?
- 駅前も含めて周辺エリアまとめて開発すべき

【どこに更新するか?】

- 他の施設と別に考えていい
- 今の場所
 - ・労働福祉センターだけ今の場所に残す
 - ・駅前の利便性等を考えると、今の場所に必要か?
 - ・土地については現在地で一致している
 - ・南側に圧縮して北側に駅前としてのスペースをつくるのはどうか
 - ・車の事を考え大きい道路に面していたほうがいい
- 移転
 - ・移転先の周辺環境にも影響がある
 - ・具体的な候補地の掲示が必要
 - ・移転はしないで
 - ・三角公園の問題解決に向け配置は?
 - ・三角公園に労働センターは立地としてふさわしくない
 - ・第2住宅が空いたところに、労働センター機能がよい
- 立地条件
 - ・駅、学校などとの関係を考慮
 - ・車を考えると国道沿いがよい
 - ・車に頼りすぎ。歩いて行ったほうがよいのでは
- 駅前
 - ・センターは駅前に必要か? 駅前の賑わい
 - ・新今宮の顔
 - ・労働福祉センターの交通アクセスを重視するなら、駅前活用を南にするしかない

■現状・全体意見

【現状】

○施設の概要

- ・ 4フロア 3,800㎡
- ・ 80床あるが使用しているのは60床ほど
- ・ 入院は30人ほど
- ・ 精神科は週2日
- ・ 曜日が決められていて受けられない
- ・ 外来は200人/日

○現状の問題や課題

- ・ 交通アクセス、赤バスの課題
- ・ 入退院を繰り返す人が多い
- ・ 女性の入院にハードルがある
- ・ 経営のシステムが崩れている
- ・ 市立更生相談所の廃止の影響
- ・ 医療センターはタダではない
- ・ 病院に意見を言える環境がない
- ・ 薬がほしいのにもらえない
- ・ なぜ歯科なくした？
- ・ 結核の問題を抱えている人が多い
- ・ たくさんの人が来るためトラブルがある
- ・ 精神科を患う女性、野宿者が増えてきているのが気になる
- ・ 患者が高齢化してきている。かつては成形が多かったが、生活習慣の病気が増えてきている
- ・ アルコール依存の患者さんは普通の病院で受け入れるのは難しい

○居場所機能

- ・ お金がない人や保険のない人の大事な寄りどころ
- ・ よその地域から排除された女性が釜ヶ崎にきている

【基本の考え方】

○利用者のニーズを考える

- ・ 誰が利用しているのか？地域の人、野宿者、労働者？
- ・ 将来のニーズを見すえた機能を考えるべき
- ・ 女性、子供の受け入れで労働者を排除しないように
- ・ どんな人も利用できる病院

○民間との関係

- ・ 民間と社医センの役割分担はどうするのか？
- ・ 私立病院に任せきりは良くない
- ・ 行政がどれだけ予算を付けるのか
- ・ 直営なのか民間なのかをはっきりして、どれだけ行政が出してくれるのか

○運営

- ・ 特化型で内実を議論すべき
- ・ 福祉システムこのままでいいのか？
- ・ 医者は患者との関係を築くことが重要
- ・ 無料低額は継続できるのか？
- ・ 運営は赤字を減らして継続的に
- ・ 病床が多ければ施設を回していきやすい？
- ・ 経営者、当事者の考え意見は？
- ・ まちの変化に応じて医療も変化していく
- ・ 多様な人が来たとき、病院はそれに対応できるのか？
- ・ 治療、自立生活に繋げることで、医療費の抑制につながるのでは

○ファミリー層が利用を遠慮してしまう

○一般的な病院必要？

○太田先生が医療センターをつくってくれた。その志を継ぐべき

■これからの機能

○地域との関係

- ・ 地域に根ざし継続して治療できる
- ・ 地域と協力して維持していく
- ・ 地元の中に色々なケアを増やすべき
- ・ 地域でのニーズとの関連性が大きい
- ・ 労働者が行きやすい医療センターに

○総合化、専門化、どちらでいくのか、決めるのが先

- ・ 専門化、総合化どちらもメリットはある
- ・ 医療センターを経営している人の話を聞くべき
- ・ 診療所が変わったならなにもできない(手術など)
- ・ 特化と強化は別。複合的な病院が必要
- ・ 複合的な病症に対応できる病院機能を

○総合病院機能(複合的な医療)、専門病院機能

- ・ 子供、女性、個別性に丁寧に対応できる医療センターに
- ・ 一人一人の尊厳や状況に丁寧に対応する医療センターに
- ・ 精神科を患う女性の野宿者の受け皿をつくるべき
- ・ たくさんの病棟は無くとも、結核の病棟が必要
- ・ 結核や精神など全ての症状をまとめるのはどうなのか
- ・ 労働者、地域住民、これから入ってくる子供、ファミリー層、結核患者、精神疾患を抱えている人(最近女性野宿者が増えている原因)すべての人に一人一人の尊厳や命、状況に丁寧に対応できる体制を
- ・ ファミリー層などの新規居住のためには必要(特に小児科、現状は子育てニーズに対応出来ていない)
- ・ 最先端の研究所を医療センターの中に作る(高度医療、先進医療)
- ・ 総合化の場合、規模が大きくなるのをどうする?(大病院化しようというわけじゃない)
- ・ すべての機能を持たすことは難しい→「結核」「精神」などを充実、集中的に

○診療科目などを充実すべき

- ・ 小児科が必要(結核イメージとマッチしない)
- ・ アルコール課題についても治療できる精神科を
- ・ 水、金の診療を毎日
- ・ 入院のできる社医センが必要
- ・ 退院後すぐ再発する、あとの体制も必要(居宅介護)
- ・ 時代時代のニーズによって変わっていく診療内容に
- ・ 薬物依存の治療も必要(アルコールも)
- ・ 精神科(訪問診療も)、アルコール依存、高齢者、合併症、結核機能を備えた複合的医療
- ・ 医療、在宅、地域連携ができるシステムを→PSW、MSWの配置が重要

■これからの機能

- 結核について
 - ・結核患者の入院機能
 - ・結核の治療には西成は向いていない？
 - ・結核病院（病床）は必要
 - ・この町の中で結核の治療ができ、生活も出来るように
- 相談機能（生活をサポートする新しい福祉）
 - ・適した職を与える仕事のサポート
 - ・退院してからのシステム
 - ・入院機能、退院後のフォロー
 - ・在宅医療をかえていく
 - ・患者の話を聞いてほしい
 - ・地域連携室を設置してほしい（専門の相談）
 - ・精神的、生活や社会復帰、安定した生活に繋げていく相談機能
- 医師・医療スタッフ
 - ・志のある医師が継続的に（長期的に）勤務できるように
 - ・専門相談や医療従事者が必要（アルコール、薬物）
 - ・他の医療機関へもつなぐ事が出来る人（他の機関と連携）
 - ・地域関連の研修（地域のことを知ってもらいたい）
 - ・設備を更新しても対応を変えないと変わらない
 - ・信頼できるお医者さんがほしい
- 3,4Fに避難場所を
 - ・日常は図書館などに利用
 - ・医師がいる場所だと安心する
 - ・隣接でもよい
- 無料低額
 - ・無料低額診療の継続（絶対必要）
 - ・MRIや高度の医療器械を無料低額は難しい
- 病床
 - ・結核の病院作ってほしい

■必要な規模

- 今の規模が必要か
- 入院病床も必要
- 将来必要な機能を考慮した規模構成
- 総合病院化すれば、規模が大きくなる
- 病院としては、現状は小さい
- 結核の入院病床は別の建物にしなくてははいけない（現実的かどうかは定かではない）
- 今の規模を維持することが最低限（補助金のことなど）

■更新方法・立地

【どこに更新するか？】

- 病院は地域内に
- 他の施設と別に考えていい
- 連携しやすい立地
- 機能や規模との関係から場所を考えたい
- 労働福祉センターと連携
- 避難場所や防災シェルターと近接
- 住宅と親和性があるので一緒に萩小移転するのは
- 北公園などの公園はどうか
- 公園を壊すのは良くない
- 現状のままの社会医療センターなら住宅と離れた方がよい
- 継続するためには住宅と一緒に移転すべき
- 社医センが萩小に移転したら動線が厳しい（通勤の医師、看護師）
- 萩之茶屋小学校跡は、住宅だけでは広すぎるのでは、社会医療センターも一緒に

■現状・全体意見

【現状】

- 建物の状態
 - ・耐震性の問題など早急な対応を
 - ・地震がきたら大変（エレベーターが傾いている）
 - ・地震いつ来るかわからんから怖い
 - ・住戸部分だけを取っ払う工事できる？（労働センターを使いながら工事可能？（耐震上、運営上））
 - ・明日危ない住宅をどうにかすべき
 - ・駐輪場がない
 - ・1と2の住宅は寿命が違う
 - ・人の命を優先にすべき
 - ・地震のときに自転車が倒れて危ない
- 居住者の状態
 - ・10年先はみんなが年寄り。動ける人がいなくなる
 - ・年配の人が怖い。若い世代が自治会内に入ってきている
 - ・現在の平均年齢は70歳前後
- 第2住宅で心配なのは店舗（生活があるため）、当初28店舗、現在は10店舗
- 第1住宅126戸、第2住宅87戸
- 子育て世代向けの住宅が一棟も建っていない

【基本の考え方】

- 入居者のイメージは
 - ・若い世代のイメージは人それぞれ異なるのでは
 - ・家族世帯とは、具体的にどんな人なのか
 - ・今宮小中一貫校に行く子どもが増えるように
 - ・若い人に入ってほしい
 - ・現在の世帯と新しい世帯の共存は可能か
 - ・子育て層の増加に向けて
- 第1住宅と第2住宅の関係
 - ・第2住宅はまだ耐震上もつのでは
 - ・第2住宅を残すのは非現実的。メリットある？
 - ・第1住宅と第2住宅が同時に動いたとしても3年はかかる（事業着手後）
 - ・第1,2が同時に動くかどうかで話が変わる
 - ・第1,2住宅を別々として考えるのではなく、全体として考える
- 移転について
 - ・あいらん地域内で移転がすでに決まっているのでは
 - ・住んでる人がそこがいいって言うなら、他は別にそれでいい
 - ・移転先は機能とボリュームによってかわるので細かな案は詰められない
 - ・小学校の跡地利用の話はまだしていないのでこの段階で住宅の話は？（思い入れがある）
 - ・萩小以外の移転先があれば教えてほしい（選択肢はあるのか、青写真がないから判断できない）
 - ・市営住宅の移転問題に関して、和歌山に住民主導の移転事例がある
 - ・あいらん外という選択肢があってもいいのでは
 - ・萩小の使途も広がる「決めうち」は良くない
- 意見を聞く場
 - ・参加できない労働者たちの意見を取り入れる
 - ・住民さんで「参加型の住宅づくり」の先進事例を学ぶ場や視察も、住民のイメージを作り上げるために進めたい
 - ・住民がアイデア出したり、議論しながら住宅をつくっていく場がほしい（先進事例の視察も）
- 見守り機能
 - ・"見守り機能" どこかの施設じゃなくまち全体で考える
 - ・ヘルパーや介護の習慣が地域内で成り立っている
- 土地価格が上がる（駅周辺活性化で）ので新築入居は無理なのでは？
- 住宅はすぐに対応。労働は時間をかけて
- 子育てのことは、市営住宅だけでなく地域全体の課題→地域を含めた自治会組織を立ち上げる
- 萩小に移したとして残りのスペースはつくれるのか（萩の森は残りの？）
- 建て替え地はまち全体として考えるべき
- 住まいと一緒に便利な地域交通を考えてほしい（赤バスもなくなった）

【市営住宅住民の想い】

- 意見を良く聞く
 - ・住民1人1人へ丁寧な説明や意見を聞く
 - ・住宅の事は、住人だけで別会議を
 - ・第2住宅は、11月20日の会合で理解を得られれば検討
 - ・住人の班長を呼んでは
 - ・第2住宅では、今まで集まって話をしたことがない
 - ・住民への正確な説明が不足
- これまでの生活を大事にしたい
 - ・居住者の繋がり（昭和45年以前からの住民のつながり）を大事にしたい
 - ・仮設住宅は地域内に
- 移転・地域に住み続けたい
 - ・今の生活環境を変えず移転したい
 - ・110名以上が萩小跡に移転で合意している
 - ・移転に反対、違う意見を持つ残りの2割の人はどう思っているのか
 - ・地域に密着している人が多いから地域から出たくない
 - ・移転費用はどこで担うのか
 - ・この地域以外に移る気はなし
 - ・費用的な問題、時期が分からない
 - ・家賃が上がらず住み続けたい
 - ・引っ越し費用、設備費用などは十分か
 - ・建替えなどで生活が破たんしたら困る
- 店舗について
 - ・商店機能を具体的にはっきりと話し合いを
 - ・建て方によっては店舗に意味がない（建て方によっては商店が変化する）
 - ・商店機能は絶対必要（第2住宅）
- 耐震問題は立退きの口実では
- アンケート結果を役所へ提出します
- 縦のつながりはないが、横のつながりは強い

■これからの機能

【住宅の機能】

- ファミリー層の住める住宅
 - ・ここで子供が育つ住宅に（施策を、転用支援）
 - ・簡宿から家族向け住宅に転用（簡宿の利用）
 - ・子育てをするための安心が必要ではないか。①医療②防災③遊び場の機能がいないのではないか
- 新しい住民の入りやすい住宅
 - ・保育所を併設
 - ・新しい世代を呼び込む住宅に
 - ・子育て世代の住宅免除を
 - ・子育てをするための安心が必要ではないか。①医療②防災③遊び場の機能がいないのではないか
- 新しい住民の入りやすい住宅
 - ・単身・若者・高齢者など
 - ・だれもが安心して住める（来たくなるような住宅）
 - ・仕事をさがす少ししんどい人（地域に仕事があるから集まる）
 - ・労働者の単身用住宅（シェルターではなく、単身者が入れる住宅（低家賃））
 - ・子育てをしている家族に、「まちの良さ」をPRしてもらおう（安心できるまちになるのではないか）
 - ・倍率が低い「いいところ」だと宣伝してほしい
- 防犯・防災対策
 - ・防犯ベルを付けてほしい。周辺住人に聞こえるくらい。孤独死がなくなる
 - ・孤独・ひとり身SOSを出せるボタンが欲しい

【住宅以外の機能】

- 機能は分散（バラバラに）してもよい、住宅は別に考える
- 住宅以外の施設
 - ・生活用品が買えるような店舗は必要
 - ・広場（イベント用）
 - ・憩いの場
 - ・DOTS
 - ・萩の森は残して、萩の森プレイパーク
 - ・保育所
 - ・防災機能
 - ・市民館・公民館のような緊急時集まれるスペース、中学校も含む地域全体で考える
- 支援サポート
 - ・軒下で寝ている人をなくすためにはシェルターや仕事の支援が必要
 - ・福祉や見守りが必要
 - ・サポート機能、つながりをつくる機能があれば安心
 - ・この住宅だけで行うのはむずかしい

【住まいと労働の関係】

- 仕事と住宅をセットで考える
- まちの仕事（店）もある
- 労働者が入れる住宅を作ってほしい
- 市営住宅で、若い世帯が仕事をもち、住まえる住宅がほしい

【住まいと医療の関係】

- 住まい・仕事・医療を一緒に（病院は近くにあった方がよい）
- 住民は社医センは使っていない。地域の「まち医者」を使っている
- 社医セン、今のままの機能だと地域にはあまり関係ない
- 逆に、地域の人は社医センに行きづらい
- 町には病院がいっぱいあるが、今のままの社医センの機能は必要？
- 社医センの特別な機能（結核）を必要とする人もいる

【住まいと駅前の関係】

- 駅前の開発に合わせて住宅も付置される可能性が高い
- 駅前に商業・住宅一体の施設を（駅前ということを活かす）

■必要な規模

- 今の住民と新しい住民が住める規模
- 規模を大きくして若い人をたくさん入れてほしい
- 現入居者＋外から入ってくる人も想定したボリュームが必要
- 高層住宅をつくる
- 規模を小さく、移転

【住戸の具体的な提案】

- いろんな世帯が入る住みやすいプラン
- 子どもの部屋を広く
- コの字、口の字型の設計
- 中庭を広く→駐輪、駐車、店舗
- 3世代住宅も必要（住宅の建て方の多様さ）
- 多様な住まいや他機能も組み込んでほしい
- 単身世帯（今住んでいる人）はスペースを小さくしてもよい
 - ・その分、ファミリー層へ（間取りの工夫）
 - ・単身高齢者のための間取りの工夫が必要では？

■更新方法・立地

【更新方法】

- 一度に一括して更新した方がよい(第一も第二も)、費用も安くなる
- 現地建替えか移転か、住宅は建替えより移転をしてほしい
- 他の機能との関係
 - ・住民の生活リズムを考慮した更新
 - ・社医センと住宅を一緒にすることは受け入れられる
 - ・他の機能と近くでもよい
 - ・下に店舗、上に住宅

【どこに更新するか？】

- あいりん地域“内”で検討
 - ・社医センと住宅、一緒には萩小へ
 - ・空いている公園、運動場など活用を
 - ・萩小跡地はどうか
 - ・配付地図をあいりんとしたら移転でよいのか？
 - ・年配の人が多く、遠い地区に移転するのは難しい
 - ・仮移転のある現地建替えより地域内建替えによる1回移転
- あいりん地域“外”も含めて検討
 - ・弘治/今宮/馬淵も選択肢
 - ・あいりん地域(地図)の範囲外も選択肢
 - ・クラブコスメ跡地を候補地に入れるべき
- センターより先に住宅を着手
- 第一住宅の意見
 - ・小学校跡地に移転したい(住民ほとんどの意見)
 - ・住宅建替えは早く着手してほしい
 - ・耐震が心配ですぐにでも移転したい人は他の市営住宅に移れるように
 - ・みんな一緒に移りたい
 - ・萩之茶屋小学校跡地がだめなら、徒歩圏内に。たとえばコスメ跡地
- 第二住宅の意見
 - ・基本的に現状維持を希望
 - ・理解が得られれば移転も
 - ・歩いて10分以内がいい
 - ・店舗の運営が成り立つような場所に移転してほしい